

# 1年3組 国語科学習指導案

場所 1年3組教室

1. 単元名 本とともにだちになろう 「ずうっと、ずっと大すきだよ」

## 2. 単元目標

易しい読み物に興味を持って読んだり、友達と本の紹介をし合ったりしながら読書をする楽しさを知る。

自分の読みたい本を選び、興味を持って読もうとする。(関心・意欲・態度)

易しい読み物を楽しんで読む。(読む)

友達に紹介したい本を選び、紹介文を書く。(書く)

今まで読んだ本の中から好きな本を友達に紹介する。(話す)

友達の本の紹介に興味を持って聞く(聞く)

## 3. ひびき合う子ども達をめざすための指導の工夫

### (1) 単元について

#### 話すこと聞くことについて

「話し手は大きな声で分かりやすく。」「聞き手は話し手の方を見て聞く。」などの基本を再確認させたい。

#### 書くことについて

登場人物・簡単なあらすじ・読んで感じたことなどを3文以上をめあてに書かせたい。また、友達に伝えるということを意識させ、自分で読み返して分かる文になっているかを確かめさせたい。

#### 読むことについて

「ずうっと、ずっと、大すきだよ」では、場面の様子や登場人物の行動などについて、想像を広げながら読み主人公の心情なども読み取る経験をさせたい。その経験をもとに次の「おすすめの本はっぴょうかい」で、読み取った内容を友達が興味を持って読みたくなるように伝えることができたらしらう。

本学級の児童においては、読書に対する意欲・関心・経験の度合いに個人差があるように思う。本単元の、「おすすめの本はっぴょうかい」で友達に本を紹介するというめあてを持つことにより、本を真剣に読むきっかけとなり、紹介してもらうことで、多くの本についての情報が得られ、読んでみたいという意欲を喚起することになると思う。今まで読書タイムをなんとなくやり過ごしてきた子ども達にも、本の良さを楽しんで伝えてくれる友達の姿を見て読書に興味を持ったり、今まで読書に親しんできた子達はさらに多くの本に触れ、ますます本を読むことが楽しくなったりしてくれればと思っている。

紹介の後に質問を受けるということで、お話の中であったことなどを言える程度に読み取ろうとする気持ちを持たせたい。また、質問だけではなく、同じ本を読んだ友達にもお話ししてもらうことにより、お互いに共感し合ったりいろいろな考えに気づいたりするなど、本を通して友達の思いを知ることができたらと思う。

### (2) 研究主題との関わりについて

#### < 知的好奇心 >

登場人物などに同化して読んだり想像を広げながら読んだりして、物語から登場人物の心情などを

感じ取ろうとする姿を、また「おもしろい本を探そう。」「おもしろかった。もっと読みたいな。」「友達の話を聞いて、読んでみたいな。」「本の中身をもっと知りたいな。」などといった読書意欲の向上を知的好奇心と考えた。

<ひびき合い>

物語を読んで感想などを意見交換をすることにより「友達はそう思ったんだ。」「そんな風にも感じたんだ。」などとひとつの物語でも人によっていろいろな感じ方があることを知ったり、共感したりしてお互いの感じ方を認め合う姿をひびき合う姿と考えた。

一人で本を選ぶことはただ何となくとか、絵で選ぶとか自分の勘に頼るところが大きい。反面、友達に紹介してもらおうということは、簡単なあらすじが分かったり、「友達がおもしろいって言ったからきっとおもしろいだろう。」というように期待感を持って本と出合ったりすることができる。そういった情報交換を重ねながら多くの本に触れ、お互いに読書に親しもうとする姿もひびき合う姿と考えた。

(3) 指導について

本単元では、このような目指す子供像に迫るために、次のような手立てを考えた。

「ずうっと、ずっと大すきだよ」では、登場人物に同化しながら読ませることにより主人公の心情を感じ取らせたい。また、気に入った場面や文に線を引いたりすることにより物語に対する自分なりの感想を表現させたい。

「どくしょカード」

読んだ本の題と簡単な内容、おすすめ度を記入することにより、目的意識を持って読むことができる考えた。

「おすすめの本コーナー」の設置

先生からのおすすめの本をスタンド式の書棚に並べる。今まで読書にふさわしい本を選べなかった子にも、具体的に提示することにより迷わずに選び今までより豊かな読書体験をさせることができる考えた。

「しょうかいカード」

しょうかいカードには本の絵を描くことにした。お話を聞いている子ども達が興味を持って聞くことができたり、絵によりイメージが膨らみ質問がしやすいだろうと考えた。またしょうかいカードは、箱に入れて常設しておくことにし、いつでも子供達が見て情報を得られるようにしたい。また今後も自分の書いたカードがみんなの役に立つという満足感を得させたいとも考えた。

「こんどよんでみたい本カード」

発表会などを通して紹介された本の中で、今度読んでみたい本の題名や、その理由を記入したり、紹介してくれた友達に感想を書いたりする。発表会でどのくらい読書意欲が向上したかの見取りもできるとともに、感想を書いてもらった子にとっては、紹介してよかったという満足感が得られるだろうと考えた。発表会を次の読書につなげられたらと思う。

## 5. 指導計画

時間	指導計画	具体的な評価基準	評価方法
1 2 3 4	「ずうっと、ずっと大すきだよ」を音読する。 「ぼく」と「エルフ」がしたことを話し合う。 好きなところに線を引く。 「ぼく」の心情を話し合う。	・興味を持って読んでいる。(関・読む) ・物語の大体を読み取ったり、主人公の心情を感じ取ったりしている。(読む) ・自分の感じたことを分かるように話したり、友達の話をしっかり聞いている。(話す・聞く)	・観察
5 6	紹介する本を選び、紹介するための絵を描く。 紹介文を書く。	・進んで紹介する本を選んでいる。(関) ・紹介文を分かりやすく書いている。(書く)	・どくしょカード ・しょうがいカード

## 6. 本時について

### (1) 本時目標

友達と本の紹介をし合ったり質問したりして、易しい読み物に興味を持って読もうとする意欲を持つ。

### (2) 本時展開 (本時 8/8)

学習活動	指導上の留意点
<p>1. 本時のめあてを確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>1. 好きな本を紹介しよう。 2. お話を聞いて今度読みたい本を見つけよう。</p> </div> <p>2. グループで本の紹介をしたり、質問したりする。</p> <p>3. 「おすすめの本はっぴょうかい」を開く。 紹介する人は前に出て絵を見せながら話す。 聞いている人は、質問やその本についてのお話をする。</p>	<p>「こんどよんでみたい本カード」を配り、グループでの発表や全体での発表会で使うことを知らせる。</p> <p>紹介文を分かりやすく読むことができない子・質問に答えられない子・質問できない子には、助言する。</p> <p>発表した子の名前と本の題名を板書する。</p> <p>紹介文を分かりやすく読むことができない子・質問に答えられない子・質問できない子には、助言する。</p> <p>様子を見て教師も質問や感想を話し、本についての情報や聞き手の感想などを引き出していく。</p> <p>友達の紹介に興味を持って聞いているか。 分かるように紹介したり、興味を持って聞いたりしているか。</p> <p>全員紹介できなかったが後日紹介できること、箱に入れて常設することを伝える。</p>

4. 「こんどよんでみたい本カード」に読んでみたい本の題名やその理由、紹介者に対する感想などを記入する。

書けないでいる子に助言する。  
読書意欲が向上しているか。

「こんどよんでみたい本カード」を紹介したり、本時の良かった点を評価したりして、本時のまとめをする。  
紹介できなかった「こんどよんでみたい本カード」は、後日紹介することを伝える。

(3) 本時の視点

本時の目標を達成するための手立ては適切だったか。

「ひびき合う」姿は見られたか。